



# 学資保険とジュニアNISAの 比較

Akira Sugiyama

# 通常の保険

保険契約者	被保険者	保険金受取人
保険契約の当事者 = 保険料負担者	保険の対象となる人	保険金を受け取る人
		
お父さん	お母さん	お父さん






お母さん（被保険者）が亡くなると  
お父さん（保険金受取人）が保険金を受け取る



お父さん（保険契約者）が亡くなると  
新たな保険契約者を指定する  
【保険金の支払いなし】

# 学資保険

保険 契約者	被保 険者	保険金 受取人
保険契約 の当事者 = 保険料 負担者	保険の 対象と なる人	保険金を 受け取る 人
		
お父 さん	こども	お父 さん



こども（被保険者）が  
亡くなると  
お父さん（保険金受取人）  
が保険金を受け取る



お父さん（保険契約者）  
が亡くなると  
**将来の保険料の払い込み  
が免除される**

# 学資保険

## 魅力を感じる

親に万が一のことがあったときでも子どもの学資資金を確保できる

元本割れしない

定期的に祝い金などが支払われる

預貯金より利回りは魅力的

## 魅力を感じない

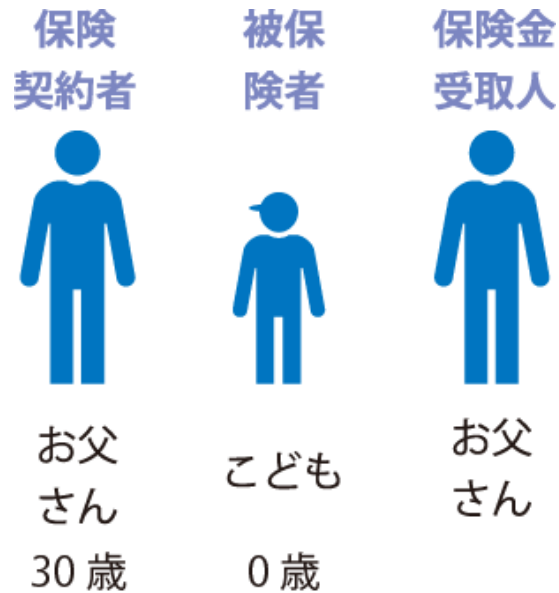
利回りがよくない

親の死亡に備えるのであれば別の保険に加入すればよい

節税のメリットがほとんどない

# 人気の学資保険の比較

- かんぽ生命
  - 学資保険 はじめのかんぽ
- フコク生命
  - 未来のつばさ



	かんぽ生命	フコク生命
保険期間	18歳満期	22歳満期
保険料払込期間	18歳払込満了	17歳払込満了
タイプ	全期間払込学 資祝金付18歳 満期	S (ステップ) 型
給 付 金	3歳時	5万円
	小学校入学時	5万円
	中学校入学時	10万円
	高校入学時	15万円
	大学入学時	100万円
	20歳	10万円
	22歳	100万円
受取総額	130万円	210万円
月払保険料	5,900円	9,493円
戻り率	102.0%	108.4%

# 戻り率・利回り

- 戻り率の計算は  
$$\text{戻り率} = \frac{\text{受取保険金・給付金の総額}}{\text{払込保険料総額}}$$
と計算されます
- 戻り率は、18年または22年の保険期間を通じての投資効率になります
  - 108.4%というのは22年間を通算した数値です。1年あたりの利回りではありません

- 1年あたりの利回り※1を求めると
  - かんぽ生命・・・0.27%
  - フコク生命・・・0.82%となります。
- 比較のため
  - 日本国債※2（10年）・・・0.44%
  - 定期預金※3（5年）・・・0.22%

※1 内部収益率

※2 2015/7/10現在

※3 楽天銀行100万円未満2015/7/10現在

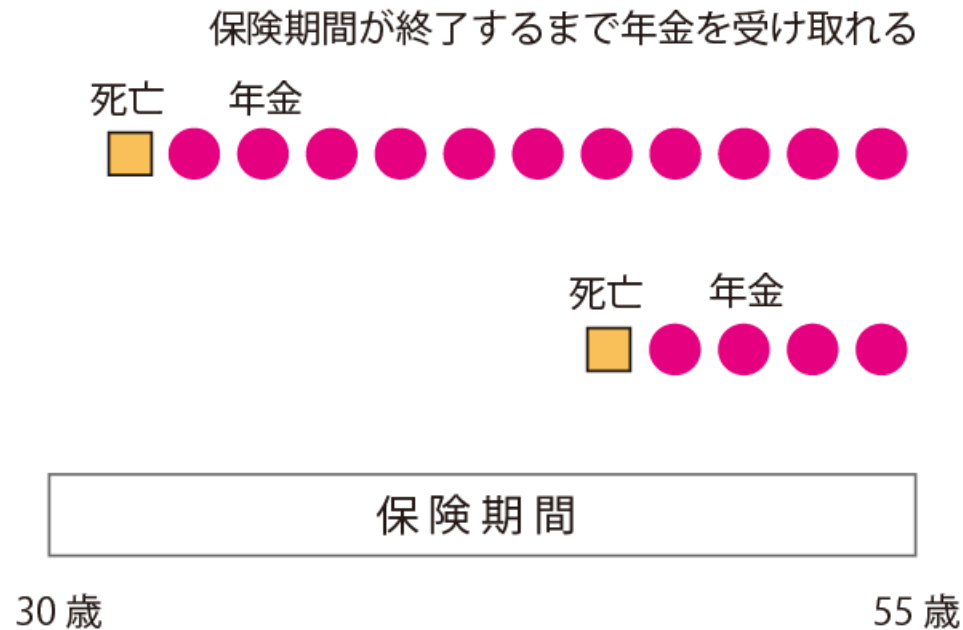
代替案を考える

学資保険

収入保障保険 + 投資信託

# 保険契約者が亡くなったときに備えるのであれば

## ■ 収入保障保険のしくみ



- お父さんを被保険者とする収入保障保険に加入すれば・・・

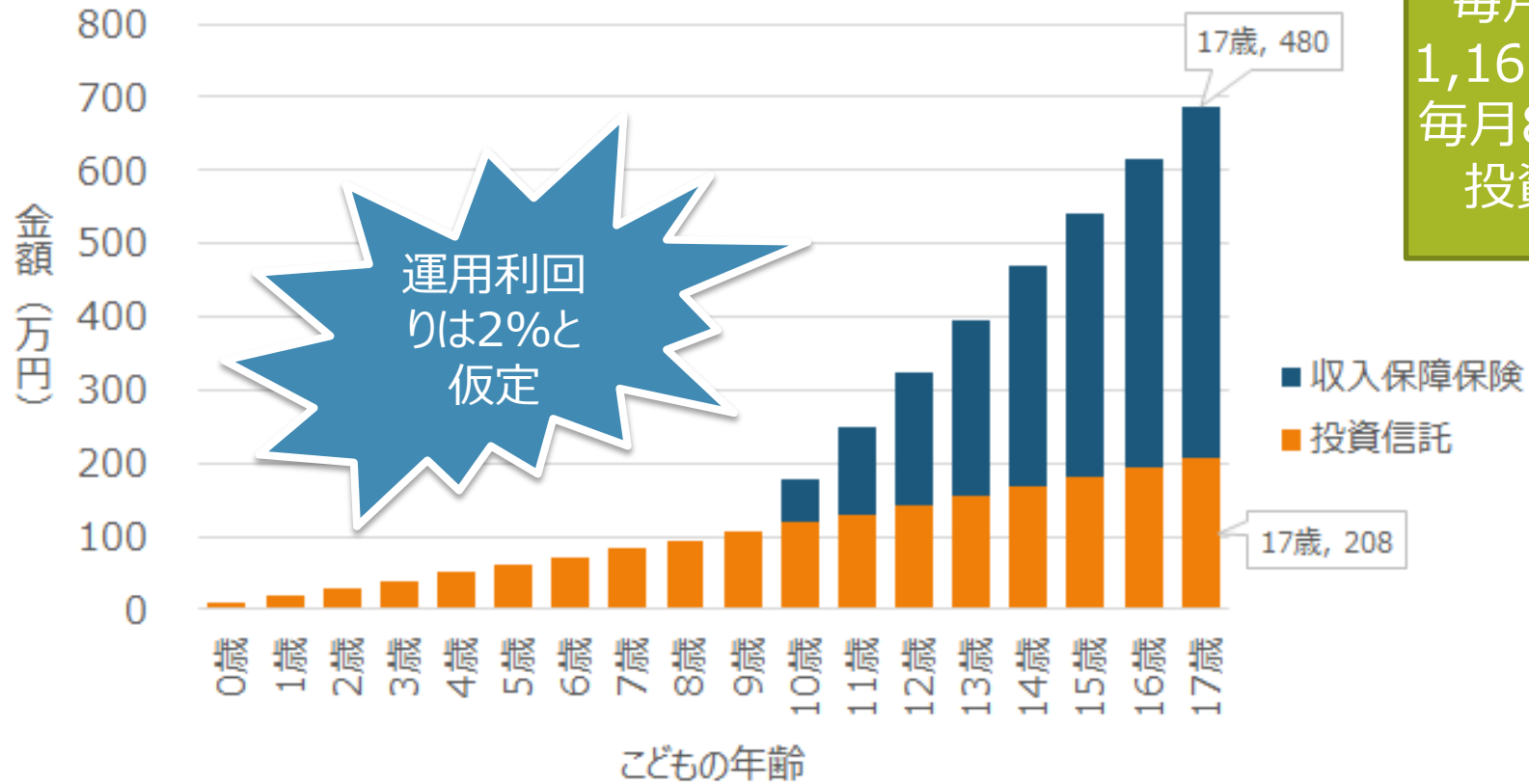
- お父さんがなくなったときでも年金を受け取ることができる
- 年金を学資資金に充当すればよい

収入保障保険 の保険料水準	アクサダイレク ト生命	チューリッヒ生 命
契約年齢	30歳	
保険期間	55歳満了	
月払保険料	1,165円	1,625円
年金月額	5万円	
その他	標準体型	



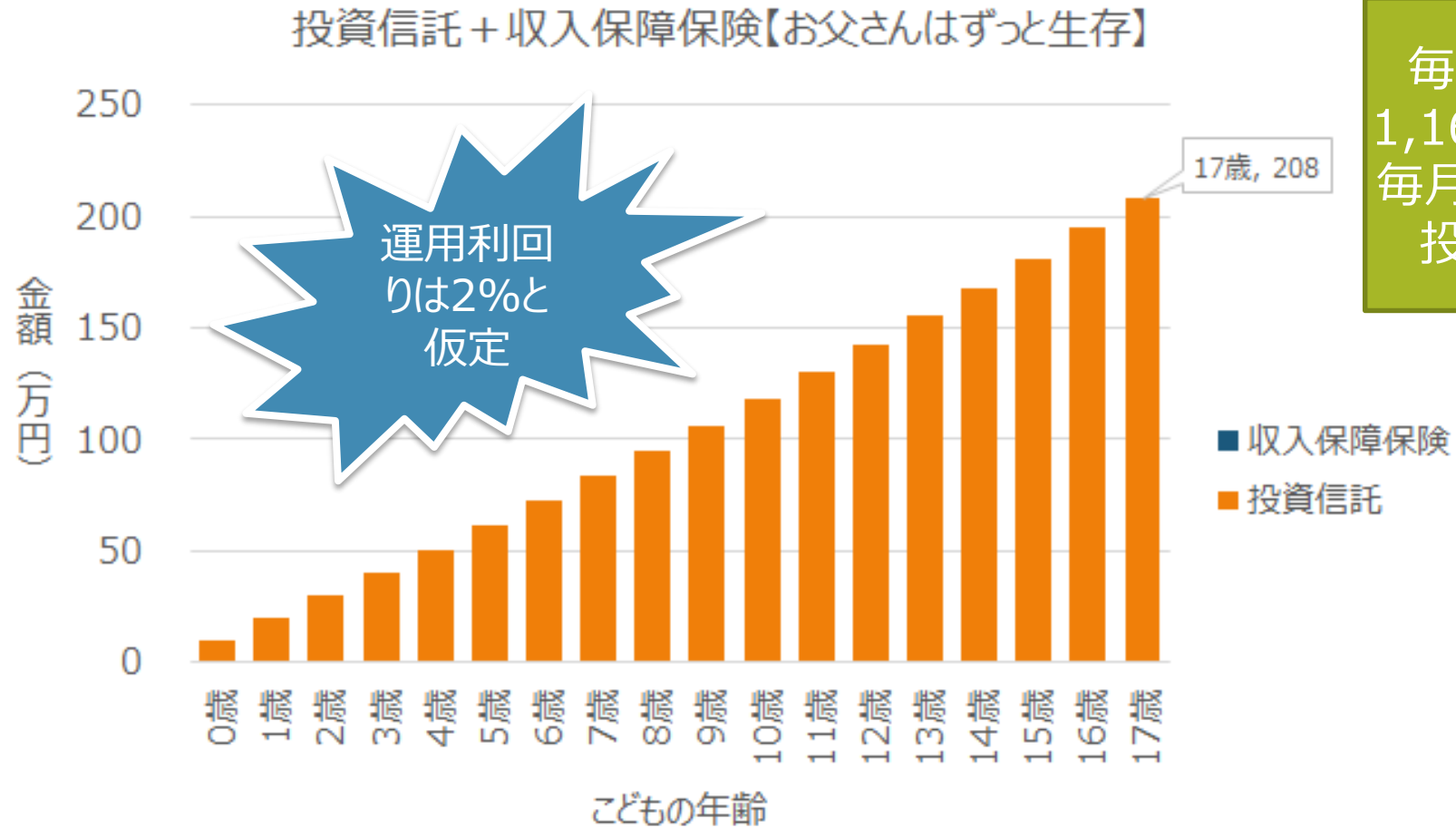
# 残ったお金で投資信託を購入する①

投資信託 + 収入保障保険【9歳時にお父さんが死亡】



毎月の保険料  
1,165円に加えて、  
毎月8000円ずつ  
投資を続ける

## 残ったお金で投資信託を購入する②



毎月の保険料  
1,165円に加えて、  
毎月8000円ずつ  
投資を続ける

## 比較してみると・・・

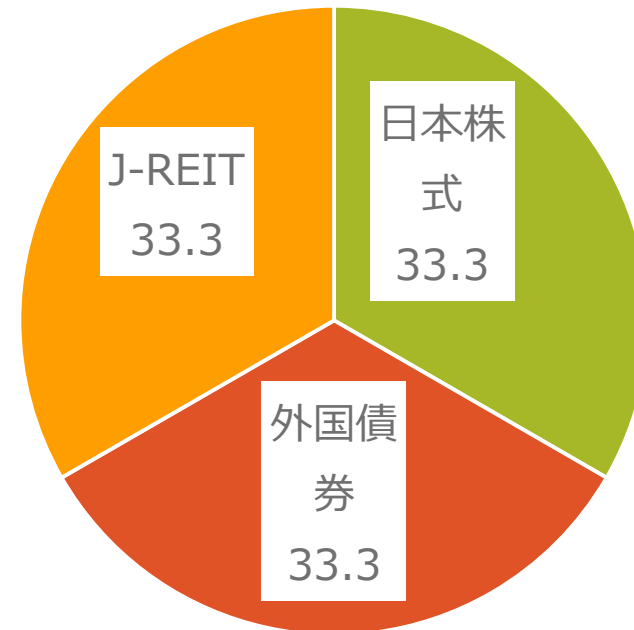
学資保険	学資保険	投資信託+ 収入保障保険
かんぽ生命	フコク生命	アクサダイレクト 生命+?
8,850円	9,493円	9,165円
18歳時	22歳時	18歳時
受取総額 195万円	受取総額 210万円	受取総額 208万円
		受取総額688 万円（10歳の 時に父親死 亡）

- 投資信託 + 収入保障保険は、学資保険と比較して、同じかそれ以上に魅力的になっている
- 確認しておきたいのは、
  - 2%の運用利回りを維持することができるのか？
  - 運用が芳しくなかったときどの程度の運用成果になるのか？

## 具体的な投資信託を探してみよう

- しんきん3資産ファンド（毎月決算型）
  - 設定・運用はしんきんアセットマネジメント
  - 全国の信用金庫で販売
  - バランス型ファンド
  - 2005年3月に設定
  - 純資産総額508億円（2015年7月）
  - 購入時手数料 2.16%
  - 信託報酬 年間 1.026%

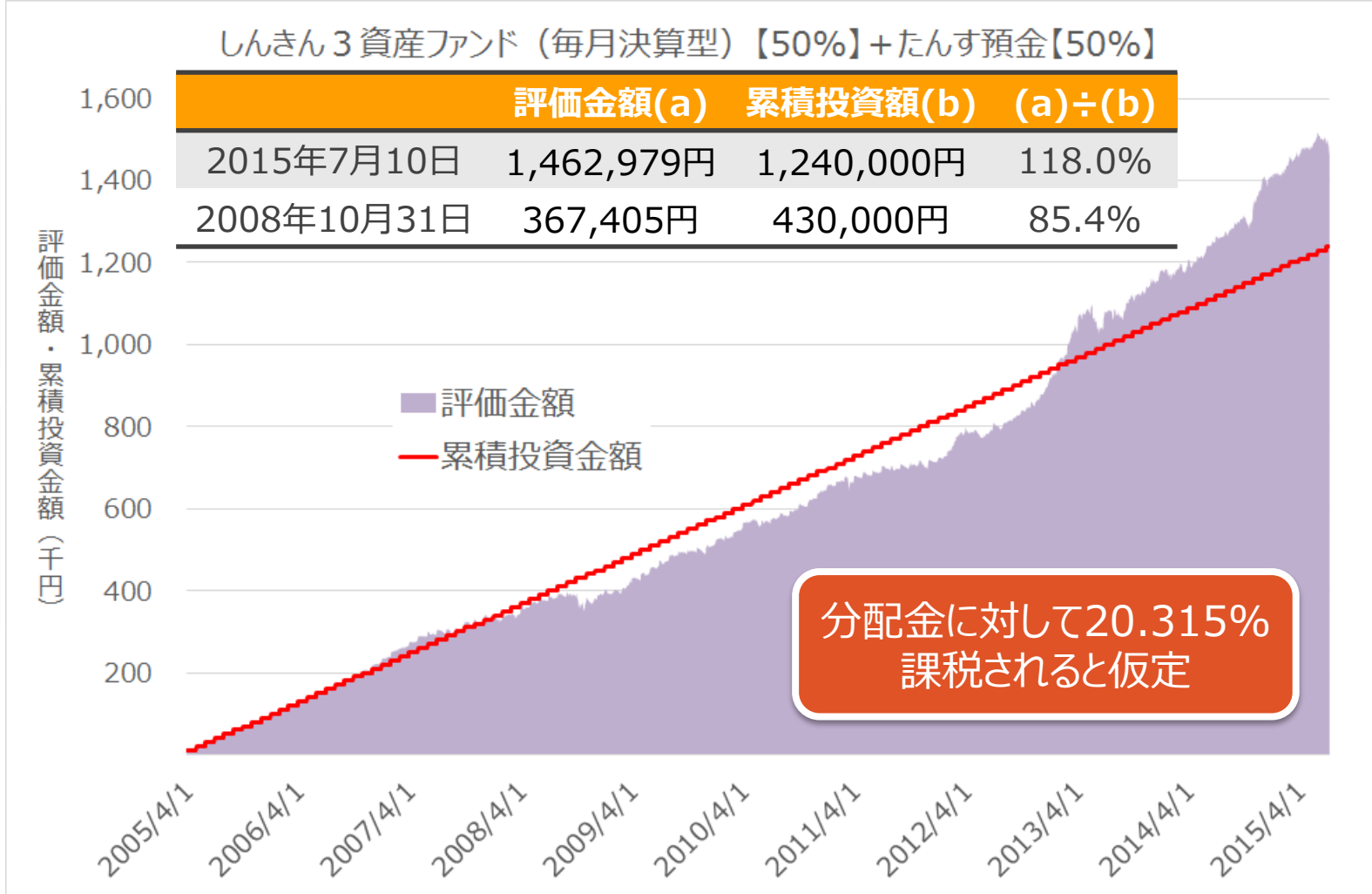
資産配分



# 過去のデータを使って分析

ファンドに毎月  
5,000円、タンス  
預金で5,000円  
積み立てる

購入時手数料  
は2.16%を見  
積もる



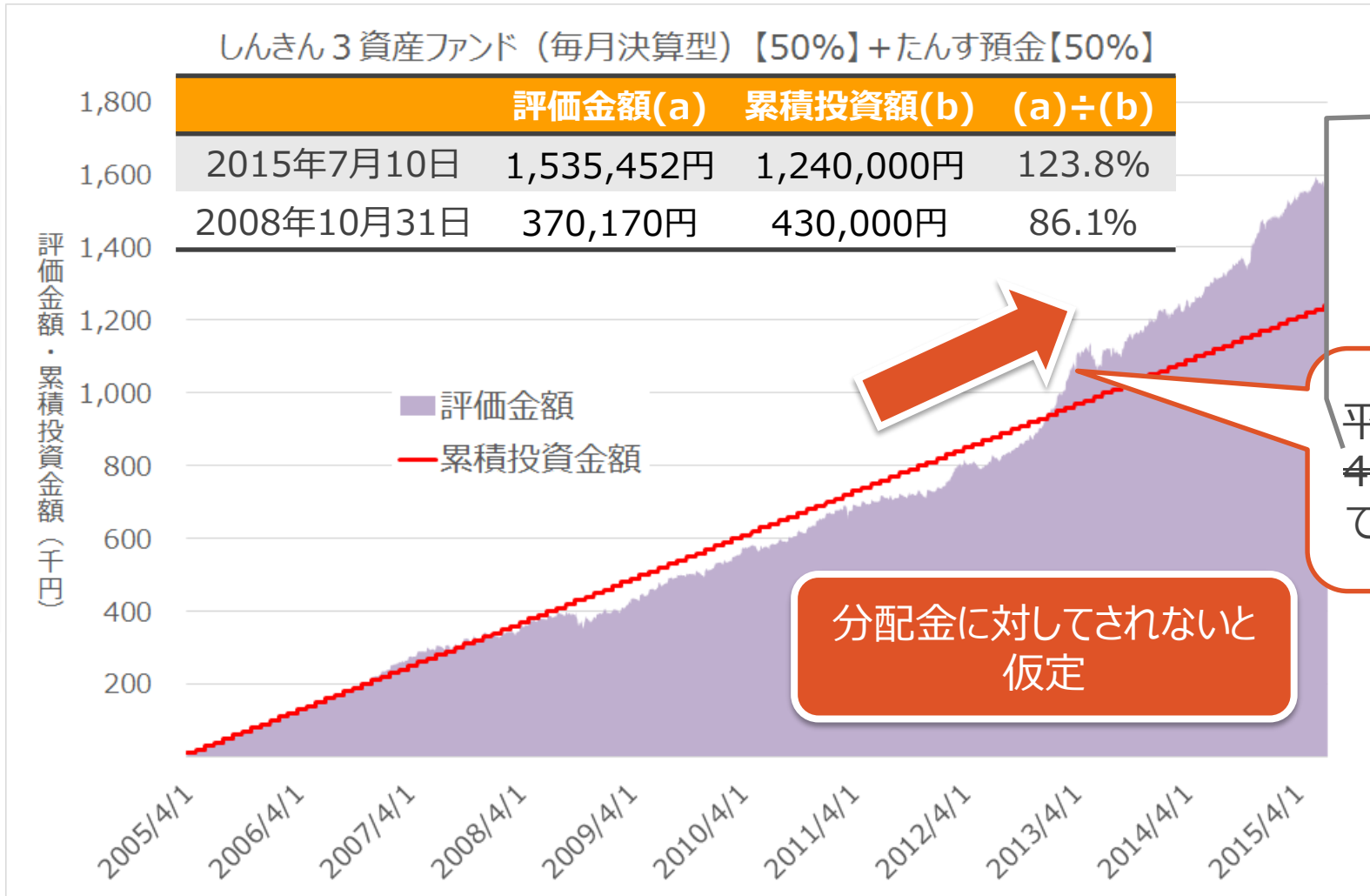
## ジュニアNISAとその影響

- 2016年よりジュニアNISA開始
  - 年間80万円までの投資については、
    - 分配金に対する課税なし
    - 利益に対する課税なし
  - 贈与税の課税も非課税
  - 対象は0~19歳
  - 取引主体は親権者
  - 18歳になるまで払い出し不可
- 現在の証券課税
  - 収益分配金・・・20.315%
  - 譲渡所得（売却益）・・・20.315%いずれもが課税されないので、非課税分が手元に残る
- 20年程度の期間が確保されるのであれば、ドルコスト平均法により投資効率を向上できる

# ジュニアNISAを使ってみると

ファンドに毎月  
5,000円、タンス  
預金で5,000円  
積み立てる

購入時手数料  
は2.16%を見  
積もる



## 結論

ジュニアNISAを積極的に活用すれば効率よく学資資金を蓄えることができる。  
デメリットは

- 18歳になるまで払い出しができないこと
- 元本割れする可能性があること

そこで、ジュニアNISAと学資保険、いずれも活用して備えればよい

- 流動性は学資保険（いざとなったら解約）で確保
- 元本割れの可能性を低くするには、学資保険の割合を増やせばよい
- 運用利回りを上げたいのであれば、ジュニアNISAの割合を増やせばよい
- ジュニアNISAで投資を考えたいのはバランス型ファンド



# コンテンツ・メイキング

どのように資料を作成したのか